「縁起物」と呼ばれる芸者衆の

千社札（せんじゃふだ）

芸者衆の名刺代わりとなるシール状のもの。
それぞれデザインが異なり、いただいた千社札をお財布に入れておくとお金が舞い込むとも言われる縁起物。
元は江戸時代に神社仏閣を参拝した際、自分の名前を残すことでご利益をいただこうと考え、
神社仏閣の柱や門に貼っていたもの。

※芸者衆のみ五十音順となります。

東京商工会議所　台東支部　産業政策委員会
〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-6-5　TEL 03-3842-5031

後援：台東区

協力： 台東区商店街連合会・上野商店街連合会・（協組）浅草商店連合会・（一社）上野観光連盟・（一社）浅草観光連盟・下谷観光連盟・浅草みなみ観光連盟・（一社）奥浅草観光協会・台東区ホテル旅館協会・上野ホテル旅館組合・浅草ホテル旅館組合・台東区観光みやげ品協会・台東区台東食品衛生協会・浅草料理飲食業組合・浅草うまいもの会・（公社）上野法人会・（公社）浅草法人会・（一社）上野青色申告会・（一社）浅草青色申告会・東京浅草組合　（順不同）

撮影・制作：（株）地域ブランディング研究所
Special Thanks：ご協力いただいたすべての皆様

※本誌掲載の写真・図版・記事等を許可なく無断で複写・転載することを禁じます。

※掲載の内容は 2019 年 1 月現在の情報です。

©東京商工会議所 台東支部

2019 年 2 月発行 Price Free

浅草花街いろは

Asakusa Kagai IROHA

浅草花街を知ってもらうための初心者入門編

Price Free

ご挨拶

芸者のまち浅草花街

江戸時代に浅草寺の近接地に花街が誕生し、芸妓が登場いたしました。
明治末期に花街は現在の浅草寺の北側に移転し、大正時代には最も多く、芸妓約1,060名、料理屋約50軒、待合約250軒ございました。区内にはいくつかの花街が点在していましたが、今では浅草3丁目から4丁目を中心とした浅草寺から言問通りを渡った位置に台東区内唯一の「浅草花街」がございます。

歴史ある台東区で育まれてきた江戸の伝統文化や花街に息づく伝統伎芸を守り・伝承・発展をめざして本冊子を作成しました。現在、芸妓、幇間、料亭が一丸となって浅草花街を中心に台東区を盛り上げています。台東区でも「江戸の魅力の継承と未来への発展〜江戸に学び未来を拓く台東区〜」とのコンセプトのもと、江戸ルネサンス事業を展開しております。

この江戸文化・伝統・ものづくりの素晴らしさを国内外に発信し、一層の伝統伎芸を伝承・保存に努めてまいる所存ですので、皆様のご支援及びご協力を広く賜りますようお願い申し上げます。

東京商工会議所 台東支部
産業政策委員会

Q. 浅草花街とはどんなまち？

A. 浅草寺の北に広がる浅草花街は、伝統と格式を誇る東京屈指の花柳界のひとつです。浅草花街は、太鼓等のお囃子で華やかに盛り上げるのが特徴で、下町情緒と人情味あふれる親しみやすさが最大の魅力です。

Q. そもそも「芸者」とは？

A. 宴席にて、歌や踊りでお客様をもてなすプロフェッショナル。舞踊や太鼓、笛、三味線などの稽古をして日々芸を磨いています。また茶道といった日本の伝統文化も練習し、和の心を大切にしています。

COLUMN

東京に残る「東京六花街」

芸者を招いて踊りや演奏などの芸を楽しむことができる場所のことを「花街」と呼び、都内六か所：新橋、赤坂、芳町（日本橋人形町周辺）、神楽坂、向島、浅草を「東京六花街」と総称しています。花街では置屋、待合、料理屋が集まっており、芸者衆の装いや料亭の趣、日本料理の美、床の間の骨董品や絵画に至るまで、花街全体が日本文化を守り現代の世に伝え、国内外の多くの人々を魅了しつづける役割を担っています。

花街こばなし 芸者衆の白塗りの文化は、昔、蝋燭の灯りでも綺麗に見えるように塗っていた習慣の名残。

浅草花柳界を支える「浅草見番」

見番とは、料亭・芸者・置屋からの組合費で運営されている、芸者衆にとって事務所のような役割を果たす重要な場所。中には芸者衆が舞踊、三味線等のお稽古をする場所も設けられています。また、見番では芸者衆に会えるイベントも実施しているため、まずはこのイベントで芸者衆と話をしたり、芸を観ていただくのもオススメです。

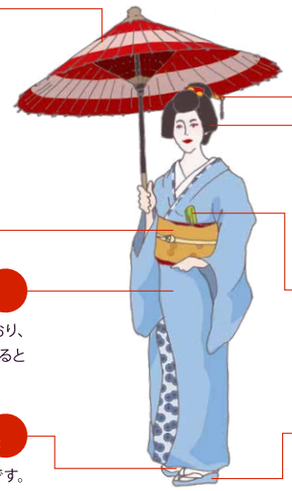
▲見番2階には大きな和室があり、この会場でイベントや全体のお稽古を実施しています。

芸者衆と出会える見番での年間イベント		
	3月 春の悠游亭	芸者衆とお座敷踊りやお座敷遊びを一緒に行うことができる会
	5月 三社祭 くみ踊り鑑賞の集い	三社祭にあわせて見番でも踊りを観ることができる会
	7・8月 ビア座敷	ビールを飲みながら芸者衆のお座敷踊りや幇間芸を観ることができる会
	11月 秋の悠游亭	芸者衆とお座敷踊りやお座敷遊びを一緒に行うことができる会

※イベントは有料となります。また開催時期、内容等は年度により変更される場合がございます。
詳細は東京浅草組合（見番）までご連絡ください（☎03-3874-3131）。

日本の文化・産業を身に纏う芸者衆

芸者衆が身につけるもの、それはすべて日本独特の文化です。台東区ではそれが産業となり、発展してきました。今でも芸者衆が身につけるものや道具はここ台東区でも揃えられています。



1 和傘（蛇の目傘）
竹を骨組みに使い、油を染み込ませた和紙を張ったもの。現在でも雨のときにはこちらが使用されています。

2 帯
正装（黒紋付）のときは、垂れている部分が歩くたびに揺れる「やなぎ結び」をします。お座敷のときには、一般的な「角出し」です。

3 着物
着物は基本、自前のもの。着物は月ごとに変えており、着物の柄も季節によるものが多い。お姐さんになると落ち着いた色や柄のものを着るようになります。

4 足袋
畳に上がることが多いため、足袋は必須アイテムです。芸者衆は足のサイズを測り、自分の足に合うものをオーダーでつくってもらっているそうです。

5 かんざし
芸者衆の黒髪を引き立てる髪飾り。季節や年齢によっても付けるかんざしが異なります。華やかな花かんざしは半玉のときにしかつけられません。

6 かつら
立方の芸者衆の髪は地毛ではなく、かつらを使用します。戦前には地毛の方もいましたが、今は髪の毛を結える方も少なくなり、かつらのみとなりました。

7 扇子
通常持っている扇子はお座敷で使用するもので、踊るときや、お座敷遊びで使用する扇子は異なります。使用用途によって、扇子を使い分けています。

8 草履・下駄
芸者衆は日本髪のときには下駄を履き（正装のときは駒下駄）、洋髪のときには草履を履いています。

平成30（2018）年、台東区では江戸創業の事業所41社が顕彰され、産業の貢献と区の魅力となっている。
花街こばなし

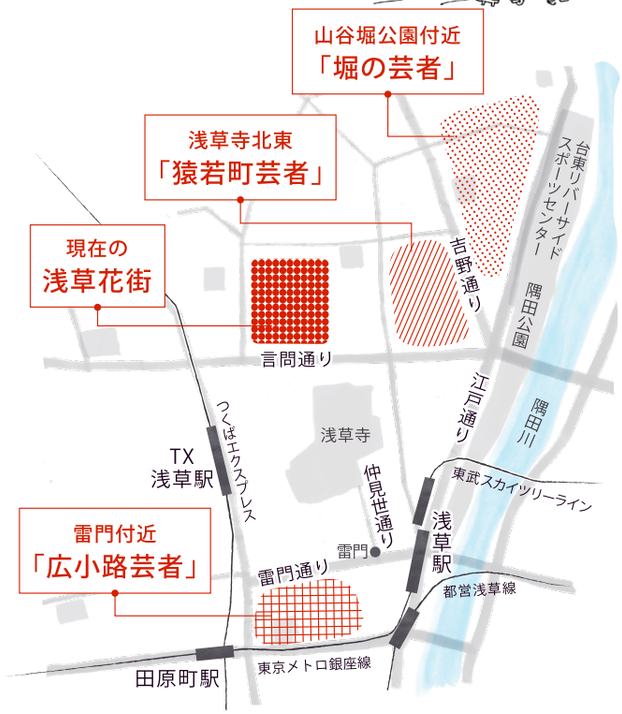
浅草花街の歴史をたどる

江戸時代から、時代の変革に影響を受けつつも、発展をつづけてきた浅草花街。
関東大震災・太平洋戦争など多くの困難を切り抜け、
高度経済成長期に最盛期を迎えます。
浅草花街はどのような歴史をたどり、現在があるのでしょうか。
歴史をたどってみましょう。

壱

江戸中期頃〜
浅草花街の始まり

宝暦2(1752)年、幕府公許の遊郭(ゆうかく)が浅草北部に移り、山谷堀付近の茶屋や船宿に出入りする「堀の芸者」が誕生しました。同時期に、雷門付近で繁盛し始めた茶屋に出入りする「広小路芸者」も生まれました。さらに天保の改革で三座の歌舞伎等の芝居小屋が猿若町に移り、その茶屋に出入りする「猿若町芸者」も誕生しました。明治維新後一時衰退するも、明治18(1885)年にこれら3つの芸者衆の一部が統合し、浅草芸者のもとになる「浅草公園芸者」が誕生。明治29(1896)年には、料理屋ごとにあった見番をまとめた「公園見番」が設置され、芸者の管理・派遣を担い、花街の円滑な運営を行いました。



TOPICS

大正時代には、芸者衆の数が1,000人超え！

写真提供：割烹家 一直

大正末期には、芸者約1,060名、料理屋約50軒、待合茶屋約250軒となり、浅草花柳界史上最も多くなりました。

弐

明治33(1900)年頃
花街が浅草寺北へ移動

公園を拠点にしていた花街も、明治時代末期になると、芸者の変遷や都市の発展に伴い、浅草の北側に移転しました。当時、雷門から宝蔵門に至る仲見世には多くの店が並び、新仲見世とともに門前町をなしており、伝統的盛り場の要素もあわせ持った日本一の繁華街となっていました。

参

昭和初期(1926年)頃〜
花街の外で活躍する芸者衆

昭和6(1931)年、レコード・ラジオ産業が発展する中、浅草芸者の市丸さんがデビュー。「ちゃっきり節」で全国的に大ヒットし、芸者歌手に大きな注目が集まりました。その後三浦布美子さんが「NHK芸術百選」や「大奥」など女優として多くの映画やドラマ、舞台で活躍しました。

市丸さん

その後、昭和55(1980)年
日本レコード大賞特別賞を受賞。

三浦 布美子さん

芸者姿で出演されていた
黄桜のCMでも有名。

▲三社祭では芸者衆が
手古舞姿となる。

北大路魯山人のような、
著名人が料亭を訪れていた。▶

写真提供：割烹家 一直

四

昭和30(1955)年代頃
花街の最盛期へ

終戦後の昭和21(1946)年、花街はいち早く復興しました。昭和25(1950)年、「浅草三業会」が組織され、芸者衆は三社祭などの行事にも参加。こうして花街は、昭和30年代前半に最盛期を迎えました。

五

平成30(2018)年〜
引き継がれる浅草花柳界

現在、芸者22名・幇間6名・料亭が6軒と、後継者は減少傾向にありますが、少しでも芸者の存在や文化を知ってもらおうと、さまざまなイベントに芸者衆が参加しています。幇間が存在している花街は今や全国で浅草のみ。貴重な文化を次世代にも引き継げるよう、花柳界の挑戦はつづいています。

※人数や軒数は2019年1月現在の情報です。

TOPICS

東京花柳界のレジェンド 浅草 ゆう子さん

◀左から3番目が浅草ゆう子さん。
三社祭での1枚。

写真提供：河村 英朗

13歳で花柳界に入り、16歳の時、「里菊(さとぎく)」の名でデビュー。2018年2月、94歳で引退するまで浅草芸者として第一線で活躍していました。政財界から芸能界まで各界の著名人のお座敷を務めていました。気さくでチャーミングな人柄から、まちの人気者でもありました。

人 伝統を受け継ぐ者たち

浅草花街には、自分たちの芸でお客様を楽しませたい、
伝統文化を受け継ぎ伝えていきたいという強い想いを持ち、
芸者や幇間として活躍する人がいます。
「自分にしかできないことを」と芸に向き合う４人に、
今の想いを語っていただきました。

厳しくも出会いに満ちた世界、憧れの芸事にひたむきに

千華 Chihana

中学時代からずっと芸者に憧れていたと微笑む千華さん。夢を諦めかけた時期もありましたが、憧れは強く、浅草花柳界にゼロから飛び込みました。芸事の世界は「自分との闘い」で、何十年つづけても修業の身。悩むことも多いですが、厳しくも優しい先輩たちの指導と、何より「お稽古事が好き」という想いから、毎日の練習とお座敷での仕事に取り組んでいます。努力が実り、芸者になって７年。仕事に反対していた両親が初めて国立劇場での公演に足を運んでくれたそう。「芸者として憧れられる先輩になりたい」とひたむきに芸事に向き合い、「日本人なら一度は体験すべき」と思われるようなお座敷をつくれる芸者をめざしています。

▲お姐さんたちと一緒に踊りのお稽古。1番左が千華さん。

Profile

埼玉生まれ。中学生の頃テレビで観た京都の舞妓の華やかさ、たたずまいに強い憧れを抱く。年々、舞妓への憧れや「和」の文化に対する想いが強くなり、昔から馴染みのある浅草の地で芸者の道を歩み始めた。

女性が人前で披露できる、芸者という芸能への関わり方

紫沙 Shisa

中学時代から古典芸能の色合いに魅了され三味線をつづけていましたが、最初の就職は会社員。女性が毎日のように人前で芸事を披露できる芸者の魅力に気づき、４つ目の仕事として芸者を選択したそう。会社員経験があるからこそ、花街の文化に苦労することもあるそうですが、今では芸者の仕事に加えて、30人の弟子の指導をしています。浅草花街の芸者衆は気取らないおもしろさ、あたたかなホスピタリティを持っていると語る紫沙さん。芸者の力で浅草花街を盛り上げていきたいそうです。

Profile

東京藝術大学出身。卒業後は、会社員として働いた経験を持つ。現在、浅草花街の地方として活躍するほか、唄や三味線の先生でもある。

さまざまな笑いの融合、自分ならではの新しい幇間スタイルを

八好 Hachikou

「自分が笑っているとき幸せだから、相手にも笑ってほしい」という想いが原点。お笑い芸人、落語などに興味を持ちながら、パントマイムに 20 年以上携わり、テレビで師匠の粋なたたずまいを観たことから、幇間の世界へ。やる気が前のめりになりすぎたり、お客様の無茶ぶり、前職の理解を得る難しさなども経験しました。4 年の月日とともに花街に馴染んできた今、歴史とブランドを持ちながら自由な表現が可能な幇間の仕事を、人生最後の仕事にしたいと考えているそう。現在は、伝統的な幇間芸とパントマイムが融合した自身ならではのスタイルを確立。幇間を知る人を増やし、花柳界にもっと人を呼び込むことが目標だと話してくれました。

▲師匠にチェックをしてもらう稽古風景。

Profile

芸人やパントマイムといった活動の後、幇間の道へ。現在は、異色の経歴を生かした幇間芸で、多彩な活動を展開している。

「好き」を仕事に、さらなる高みをめざし憧れのお姐さんへ

千晴 Chiharu

地元で初めて「吟剣詩舞（ぎんけんしぶ）」を観たとき、袴姿のかっこよさから、すぐに習い始めたそう。それがきっかけとなり、高校卒業後すぐに芸者の道に進みました。今は半玉さんですが、いつか芸者となり、お姐さんたちが着ている黒の正装に袖を通すことを夢見て、踊りや苦手な太鼓のお稽古に取り組んでいます。浅草はイベントが多く、芸者を観る機会が多い地域。だからこそ、多くの人に観てもらい、もっともっと芸者に興味を持ってほしいと、千晴さんは芸や会話の腕を磨きます。

Profile

栃木県出身。地元で友人に誘われ「吟剣詩舞」を習っていたこともあり、将来は踊りを職業にしたい、踊るなら着物でという想いから芸者へ。現在は浅草唯一の半玉さん。

20 歳頃までの芸者の卵は、関東では「半玉さん」「雛妓（おしゃく）さん」、関西では「舞妓さん」と呼ばれることが多い。

現在、花柳界の組合に所属する幇間は全国でも浅草のみ。

舞 踊り継がれる浅草おどり

1950 年に浅草おどりの前身である第 1 回浅茅会（あさじかい）をスミダ劇場で開催。1995 年には、東京浅草組合と浅草観光連盟の共催となり、台東区の後援を受けて「浅草おどり」とし、浅草の一大イベントとして定着。日頃鍛えた芸を披露する場として歴史を重ねたイベント。江戸の心をもつ花街文化の「粋」を舞台いっぱいに展開しています。

▲芸者衆は、踊りのほかにも三味線・太鼓・鼓（つづみ）・笛なども披露。

▲芸者衆だけではなく、当日は幇間衆も芸を披露。

▲お座敷とは異なり、
舞台では三味線と唄に分かれる地方衆。

COLUMN

六花街それぞれの大舞台

浅草の「浅草おどり」のほかにも、新橋の「東（あずま）をどり」、赤坂の「赤坂をどり」、神楽坂の「神楽坂をどり」といった、各花街の芸者衆の艶やかな踊りを楽しめる公演やイベントがあります。同じ曲でも各花街によって日本舞踊の流派が異なるため、振付は異なります。各花街の違いを、ぜひご覧ください。

遊 誰もが楽しめるお座敷遊び

芸者衆と一緒に遊ぶお座敷遊びはさまざまな種類があると言われ、芸者衆はその日のお客様の様子を見て、どんな遊びがいいのかを決めるそうです。今回は、お座敷遊びの中でも定番の三種をご紹介します。

お遊び 1 金毘羅（こんぴら）ふねふね

解説　地方の三味線にあわせ、交互に徳利（とっくり）の袴の上に手をのせます。台の上に徳利の袴があるときは手を開き、ないときは握るルール。間違えた方が負けとなります。地方の三味線が次第にはやまっていくのがポイントで、どちらかが間違えるまでつづきます。

▲袴があるときには、袴の上に手を開いて（「パー」の状態）置きます。

▲袴がないときには、台の上に手を閉じて（「グー」の状態）置きます。

♪金毘羅船々（こんぴらふねふね）
追風（おいて）に帆かけて
シュラシュシュシュ♪

お遊び 2 投扇興（とうせんきょう）

解説　投扇興は扇子を用いたお遊び。枕と呼ばれる桐箱の上に蝶と呼ばれる的を置き、それに向かって扇子を投げあいます。枕から撃ち落とされた蝶の状態で、源氏物語や百人一首にちなんだ技名があり、難易度によって得点内容が変化します。

▶流派によって、扇子の大きさや重さ、骨の本数などが異なる場合があります。

枕（台）と蝶（的）。▶

扇子の持ち方も芸者衆が教えてくれるので、安心。

▲投扇興の得点は、一投につき一点のものから数十点のものまであり最後の一投まで逆転の可能性があります。

お遊び 3 とらとら

解説　2 人で行うジェスチャー表現を使用したジャンケン遊び。地方の唄と演奏にあわせて行います。和藤内（わとうない）なら槍で突くポーズ（右の写真①）、虎なら四つん這いのポーズ（右の写真②）、老母なら杖をつくポーズ（右の写真③）。和藤内は虎に勝ち、虎は老母に勝ち、老母は和藤内に勝つというルールです。

◀写真右は虎のポーズ、
写真左は和藤内のポーズなので、
左の和藤内の勝ち！

♪とらとーら、
とーらとら♪

花街こばなし　金毘羅ふねふねの唄は、香川県仲多度郡琴平町にある「金刀比羅宮」を題材とした日本の古い民謡。

お座敷遊びでは負けると「罰盃」（杯をあける）というものがあり、芸者衆が掛け声をかけてくれる。　花街こばなし

覚えておきたい！

浅草花街のことば

花街には独自の文化や言葉があります。特に言葉は難しく、各花街によっても言葉の意味が異なる場合があります。お座敷で楽しめるよう、最低限覚えておきたい言葉を解説します。

地方（じかた）

三味線・唄・鳴り物（太鼓等）・笛を担当する芸者衆のこと。

立方（たちかた）

主に踊りを担当する芸者衆のこと。

半玉（はんぎょく）

年の若い芸者の卵のこと。浅草では20歳頃までが半玉さん。

幇間（ほうかん）

場を盛り上げる役割で、別名「太鼓持ち」とも呼ばれる、男性芸者衆のこと。

花代（はなだい）

芸者衆をお座敷に呼んだときにかかる料金のこと。玉代（ぎょくだい）ともいう。

置屋（おきや）

芸者衆を育て抱えるところ。置屋の主人は、芸者衆にとって「お母さん」となる。

料亭（りょうてい）

芸者を呼ぶことのできる店。自家で料理をつくる店である「料理屋」と、仕出し料理をとる店「待合」の総称。

遠出（とおで）

見番に所属していないホテルや飲食店等に芸者衆が出向くこと。

お化け（おばけ）

節分の仮装。花柳界独特の風習で、元々は芸者衆のお姐さん方が半玉に化けたことが始まり。

お供（おとも）

お迎えのタクシーや、お座敷の後のお土産や、お付きの方のこと。

後口（あとくち）

一つ目のお座敷が終わり、次のお座敷へ行くこと。または、ほかのお店へ移動する2次会のこと。

 半玉さんには年齢制限があるが、芸者衆には年齢制限がない。

座 お座敷を楽しむための基礎知識

かつては一見（いちげん）さんお断りだった花街。しかし現在は、一般のお客様にも花街の文化を知ってほしいとの想いから門戸が開かれつつあります。見番や料亭、あるいは芸者衆との宴会プランを設けているホテルや店舗に連絡をすれば予約が可能となってきました。

基本的なお座敷の流れ

「お座敷」で何をするのか、どんな流れで進むのか、基本的な流れを説明します。何も分からないで行くよりも流れが分かった方が一段と楽しく過ごせるはず。行く前に少し予習をしておきましょう。

1週間以上前

予約
まずは、見番やお座敷プラン企画会社に電話をしましょう。

当日

開演
お座敷はお客様がそろってから始まります。時間厳守がマナーです。

会席料理やお酌をされながら、芸者衆と歓談
芸者衆は食事はしないので、お酒を勧め、楽しく歓談しましょう。撮影禁止ではないですが、マナーとして一声かけましょう。

お座敷踊り
芸者衆の踊りが始まったら、談笑や食事は止めて鑑賞しましょう。

お座敷遊び
芸者衆が教えてくれるので、楽しんで参加しましょう。

お開き
お時間が足りなければ、後口へお誘いしましょう。

★ 分からないことがあれば、芸者衆へ聞いてみてください。浅草芸者は気さくで、何でも教えてくれますよ！

お座敷デビューの気になる料金

お座敷遊びをリーズナブルに体験したい方は

会社の打ち上げや飲み会、新年会でいつもとは違うことをしてみたいときに。浅草では料亭ではない場所でも芸者衆とのお座敷を体験することが可能です。

例えば 忘年会にて、会社の仲間 10 人で会場を借りて、会では芸者衆のお座敷をお願いしたい！芸者衆は3人。料理は、お弁当＋飲み放題で調整すると、おひとり約 15,000 円～で実施が可能。時間も 2 時間たっぷり芸者衆の踊りやお座敷遊びが楽しめます。

※花代は、芸者衆ひとり 30,000 円前後となります。
※飲食代は各店舗によって異なります。

10 名以上のグループでの利用であれば、ひとりあたりの金額がリーズナブルに！
女性グループだけでのお座敷も OK。女性同士のガールズトークも楽しいですよ！

本格的に楽しむ、馴染（なじ）みの方は

プライベートで芸者衆と話をしたい、文化を知りたいという方には、料亭でのお座敷をオススメします。ゆったりした空間の中で非日常を味わう贅沢な時間になります。

例えば 海外からのお客様が来日したので、5 人で日本文化である芸者衆のお座敷を体験したい！芸者衆は3人。場所は料亭の座敷にて、料理も会席料理をお願い。数杯の飲み物代込みでおひとり約 50,000 円～で実施が可能。時間も 2 時間、じっくり芸者衆と話ができます。

※花代は、芸者衆ひとり 30,000 円前後となります。
※飲食内容、席料、サービス料は各料亭によって異なります。

※詳細は東京浅草組合（見番）までご連絡ください（☎03-3874-3131）。

実施可能な店舗は次ページへ

芸者衆とのお座敷を楽しむためのヒント

ご祝儀

お客様が気持ちを表すものとして渡す、いわば心付け。海外でいう「チップ」のようなもの。ご祝儀袋に包んでお渡しします。

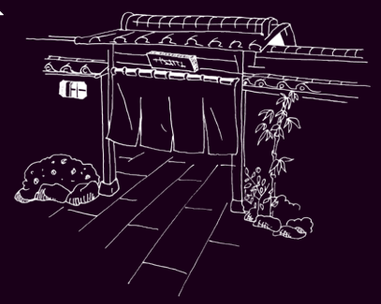
※額は 2,000円～3,000円前後/1人が目安と言われています。

お酌

芸者衆はお座敷で食事はしませんが、お酒は喜んでいただきます。芸者衆に「どうぞ」と勧めることは礼儀でもあり、仲良くなるコツでもあります。

料亭やお座敷に初めて来るお客様は「一見さん」、二度目は「裏を返す」、三度目からは「馴染み」という。

店 お座敷を楽しめる場所



浅草の中で、初めての方でもお座敷が体験できる場所、
またプライベート空間で本物に触れたい上級者の方に向けた
お座敷を楽しむ料亭をご紹介します。
一緒に行く人や目的・予算に合わせて、
カスタマイズできるのが、浅草花街のポイントです。

初めてのお座敷を楽しむ

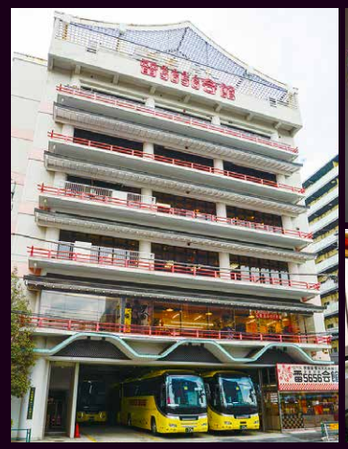
本格的な料亭でのお座敷体験はできないけれど、一度体験をしてみたいという方にオススメの場所です。

言問通りを渡った先の
花街入口のシンボルマーク

雷5656会館

創業200年を超える歴史を持つ雷おこしで有名な常盤堂が、浅草観光の拠点として浅草寺の北側に構える施設。テーブル席も座敷席もそろっており、誰にでも優しい造りになっています。お座敷遊びプランでは、浅草芸者にお酌をしてもらいながら、音楽にあわせた優雅な踊りや遊びを大人数でワイワイ一緒に楽しめます。

台東区浅草3-6-1　03-3874-5656
9:00-17:30
各月により異なります。



浅草でラグジュアリーな時を過ごす

浅草ビューホテル

下町情緒あふれる浅草に唯一そびえる、地上28階地下3階の高層ホテル。上層階のレストランでは、日本料理や中華、フレンチ等各国の料理を楽しめます。浅草の景色を一望できるこのホテルでも、お座敷遊びを体験できます。浅草芸者たちとの優雅なひとときをお楽しみください。

台東区西浅草3-17-1
お問い合わせ連絡先
03-3842-2121
9:00-18:00　土・日・祝日 10:00-18:00
無休

上記のほかにも芸者衆を呼ぶことができる店舗は多数ございます。
実施可能な店舗については、東京浅草組合（見番）までお気軽にご相談ください（03-3874-3131）。

本物を味わう、歴史を守り伝える料亭

プライベートな空間で、より本格的なお座敷を楽しみたいという方にオススメの料亭です。

割烹家 一直（いちなお）

明治11年創業の老舗料亭。5代目・6代目のときに当時としては珍しかった関西料理の要素を取り入れ、関東と関西の良いところを織り交ぜた料理を提供。それは現在も受け継がれています。

台東区浅草3-8-6
03-3874-3033
ランチ　11:30-13:30
ディナー　17:00-23:00
（完全予約制）
日曜、祝日

女将
江原 圭子さん

都鳥（みやこどり）

元々芸者だった女将が迎えてくれる浅草で唯一の待合茶屋形態の料亭。真心こもった料理でおもてなし。店の隣にはBARもあり、芸者衆との後口でも利用できます。

台東区浅草3-23-10
03-3874-2175
18:00-22:00
※ご予約状況により、
営業時間は相談可。
土・日曜、祝日

女将
河村 千景さん

瓢庵（ひさごあん）

店名は昔浅草にあり、庶民にも愛されていた「ひょうたん池」にちなんで瓢庵と名付けたそう。「みんなに愛されるお店にしたい」という女将の想いが表れています。

台東区浅草3-34-11
03-3876-8811
11:30-22:30
お盆、年末年始

女将
大瀧 洋子さん

割烹 あさくさ

昭和16年創業で、今のご主人で2代目。お客様の満足を大切に、季節ごとに四季折々の和食を提供しています。冬にはふぐを使った料理も楽しめます。

台東区浅草3-37-1
03-3874-1693
17:00-22:00
日曜

女将
亀井 充子さん

草津亭（くさつてい）

明治5年創業の老舗で、厳選された素材を生かした江戸料理を楽しめます。老舗の伝統を受け継ぎながらも、お客様に合わせて洋食などのメニューも取り入れています。

台東区浅草3-18-10
03-6458-1932
ランチ　火～日曜 11:30-13:30
ディナー　火～土曜 17:00-19:30（入店）で
22:00（退店）
お盆、年末年始

割烹 福八（ふくはち）

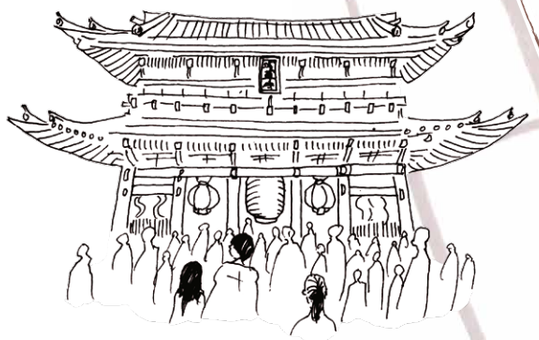
女将の両親が始めた店で、今は姉弟で店を営んでいます。料理は両親が作っていたレシピを引き継いでおり、変わらぬ味を90年以上守りつづけています。

台東区浅草3-3-4
03-3874-0171
17:00-22:00
日曜

女将
山田 和栄さん

浅草・花街 MAP

浅草の中でも花街と言われる浅草３丁目～４丁目周辺。
その中で浅草芸者衆がオススメする店を紹介します。
いつも歩く浅草とは違った顔をもつ花街エリア。
浅草の文化や産業にも目を向けて歩いてみては？
もしかしたら、芸者衆に会えるかも。



浅草花街 狭域 MAP

飲食店　カフェ・喫茶店　BAR・居酒屋　手みやげ　芸者衆の仕事用品の店

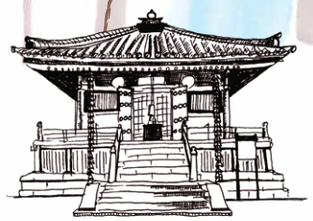
N　0　50m

- 浅草富士浅間神社
- 浅草・象潟 細井　素材の良さを活かしたふぐや牡蠣の釜めし
- ふるさと交流ショップ台東
- 田中染色　着物の染み抜きやクリーニングに最適
- ミモザ　細い路地に掲げられた黄色い旗が目印
- 浅草豆花大王　ヘルシーな台湾スイーツ専門店
- 浅草警察署
- 富士小学校
- オマージュ　ミシュランで星を獲得した創作フレンチ
- cafe michikusa　思わずみちくさしたくなるカフェ
- 蕎亭 大黒屋　力強く上品な十割蕎麦の老舗名店
- 小桜　手土産に最適なかりんとうの専門店
- 鮓 かね庄　御徒町の名店、寛八本店の系譜の寿司屋
- もがみや　刺身の盛りと牛肉のステーキが名物
- 千束小学校
- きものサロンふくや　呉服全般、着物リフォームもできるサロン
- しみいる　浅草の路地裏でフレンチ＆自然派ワイン
- KaSHiMA　現役芸者が営む「気軽に芸者に会える店」
- 酒処 雄　知る人ぞ知る観音裏チャーシュー
- みかん　おしゃべり上手なママが迎えるスナック
- 浅草 辻むら 本館　浅草でふぐ・すっぽんといえばここ！
- カフェ エル　珈琲はもちろん、食事もおいしい喫茶店
- 菓子工房ルスルス 浅草店　古民家カフェで絶品シュークリーム
- 日本屋　筆ペンを買うなら、古くからつづく文具店で
- 食彩 朋　八ヶ岳の有機野菜を使った欧風フレンチ
- いづみや　着物がたくさん、役者や芸者さん御用達
- あさひ　人気のワンタンめんは細ちぢれ麺が特徴！
- 徳太樓　名物のきんつばは甘さ控えめで絶品
- →P13 瓢庵
- 浅草見番 →P3
- 花櫚　関西割烹をベースとした会席料理を味わう
- ルディック　ワインと一緒にフォアグラ最中を味わう
- →P13 割烹 あさくさ
- サバ　フレンチをカジュアルに楽しめる居酒屋
- grill GRAND　オムライスやハンバーグが人気の洋食店
- 梅むら　豆かんてんが有名な老舗甘味処
- デュポン 美容室　芸者御用達の髪結い屋
- ヘアー・サロン・コミヤ　着付けとアップスタイルが得意なサロン
- 都鳥 →P13
- 弁天　大きなはまぐり入りのはまぐりそば！
- 割烹 福八 →P13
- THE BURGER CRAFT　パティには厳選された良質ビーフを使用
- 清司　ネタが豊富、シャリが少なめの寿司屋
- →P13 草津亭
- 龍王　野菜の甘みがあふれるやみつき餃子
- 浅草 呑み喰い処 酔花　新鮮で濃厚な馬刺しが常連さんに人気！
- 端虚堂　和装小物の販売やオーダー品の受け付け
- おにぎり 浅草宿六　ミシュランにも選ばれたおにぎり専門店
- 言問通り
- ロッジ赤石　昭和48年創業の山小屋風の喫茶店
- 田毎　釜めしと焼鳥が名物の昭和風情漂う店
- 雷 5656 会館 →P12
- aim　カフェとリラクゼーションサロンが併設！
- →P13 割烹家 一直
- 浅草寺病院
- 大菊　芸者の着物も揃える老舗の呉服屋
- めうがや　子どもから大人まで豊富なサイズの祭用品
- BRACALI　最高峰の調理法から生まれる本格イタリアン
- 千束通り
- 馬道通り
- つくばエクスプレス

広域 MAP

N　0　100m

浅草花街（浅草３丁目～４丁目）周辺エリア

- 浅草富士浅間神社
- 浅草警察署
- 富士小学校
- 千束小学校
- 浅草見番
- 馬道通り
- 言問通り
- 浅草寺病院

- つくばエクスプレス
- 吉野通り
- 東京商工会議所 台東支部
- 江戸通り
- 隅田公園
- 浅草 ビューホテル →P12
- ひさご通り
- 浅草花やしき
- 浅草神社
- 浅草寺
- 五重塔
- 百助　創業300余年を誇る舞台用化粧品専門店
- 浅草小学校
- TX 浅草駅
- 浅草六区ブロードウェイ
- 三味線みかど　製造から修理まで三味線に関する強い味方！
- 辻屋 本店　自分好みの和装履物が見つかる！
- 東武スカイツリーライン
- どぜう飯田屋　風情漂う空間でいただく粋などじょう
- 浅草六区通り
- 伝法院通り
- 飯田屋　舞扇子や衣裳など舞踊用品が揃う店
- 瓢たん屋　三味線付属品と象牙細工のお店
- 仲見世通り
- 浅草今半 国際通り本店　極上の黒毛和牛をしゃぶしゃぶ、すき焼きで
- コマチヘア　かんざしや髪飾りは国内屈指の品揃え
- 帯源　主に博多織・西陣織を取り扱う帯地専門店
- 隅田川
- 永澤屋足袋店　芸者衆の足袋をオーダーメイドでつくる店
- 宮本卯之助商店　祭衣装や神具、太鼓を幅広く取り揃えたお店
- 雷門
- 浅草駅
- 吾妻橋
- 雷門通り
- かづさや　男性用も充実、和装小物なら何でも揃う店
- 都営 浅草線
- 杵屋通り
- 国際通り
- 文扇堂　都内で唯一の職人を抱える扇専門店
- 東本願寺
- 浅草寺駒形堂
- 田原小学校
- 田原町駅
- 浅草郵便局
- 浅草通り
- 駒形橋
- 東京メトロ 銀座線
- 至 稲荷町駅
- 至 新御徒町駅